

第32回「人文知」コレギウム

20世紀が遺した問い
朝鮮半島とロシアの思想と文学から

朝鮮半島 38度線以北における文学的表現

和田とも美(朝鮮言語文化・准教授) 13:30~14:30

- 1) 脱北者が語る自己
— 社会主義下から資本主義下へ
- 2) 越北者による北朝鮮映画
— 資本主義下から社会主義下へ
- 3) 「製鉄所」の意味
— 社会主義達成以前／社会主義達成以後
- 4) 労働集団の育成と無力化
— 北朝鮮のテレビドラマ



「作者と主人公」の存在論

——バフチンの小説理論の汎用性を考える——

武田昭文(ロシア言語文化・教授) 14:30~15:30

ミハイル・バフチン(1895-1975)は、己れの思想を語るさいに、文学作品の構造を重要な参照軸とした思想家だった。本報告で取り上げる「美的活動における作者と主人公」(1920年代初め)は、バフチンが一般美学における「感情移入の美学」と「素材主義の美学」を批判して、文学作品を例に、内側から生かれた主人公の〈生の能動性〉と、それを外側から完結させて存在の新たな平面に生み出す作者の〈美的な能動性〉という、「二つの能動性が形づくる出来事」として捉え直した論文である。このようなバフチンの小説の構造的な理解が、私たちそれぞれ「自分」という物語を生きる者に、〈自己〉と〈他者〉、そして〈世界〉の理解をめぐって、どのような「気づき」や「関心」をもたらしてくれるか考察してみたい。

10月19日(水)

13:30~15:30

人文学部第6講義室

事前申込をお願いいたします。(聴講無料)

下記 URL または QR コードからお申し込みください。

<https://forms.office.com/Pages/ResponsePage.aspx?id=Pxqw12Ujs0iFczfbm9gJuKfUOTK-JFJEvf-f0mqex9UN0g0TUtJR0dZSExJTFQwQIMwVzZQQVdTWc4u>

申込締切後、登録されたメールアドレスに詳細をお送りします。メールアドレスに誤りがあると案内をお送りすることができませんので、ご注意ください。

前日までに連絡がない場合は、下記総務課にお問い合わせください。



申込締切：2022年10月16日(日)
学生・一般の方の聴講を歓迎いたします

お問い合わせ
富山大学人社芸術系事務部人社系総務課(人文担当)
jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp